第48回栄村総合文化祭 開催！

　第48回栄村総合文化祭が10月25日㈰に栄村文化会館で開催されました。村民の作品展示の他、飲食店ブースも、沢山の方でにぎわいました。
　かたくりホールでは開祭式の後、飯山高校吹奏楽部による演奏と、「安曇野の風・宮沢三姉妹」による津軽三味線の演奏がありました。
　午後は村内９団体の太鼓演奏や踊り、村に伝わる昔話、合唱や合奏などの発表が行われました。音楽劇やダンスを発表した、さかえ小中学校１～４年生の子どもたちは、発表前には緊張している様子でしたが、発表後はとても充実した表情でした。

公民館報
さかえ
第373号
令和８年11月１日発行

■ 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

■ 電話
0269-87-2100

■ 編集
栄村公民館報編集委員会

こらっせ鉄道まつり

10月4日、地域史料保全有志の会・新潟大学鉄道研究部主催、栄村教育委員会後援による「こらっせ鉄道まつり」が開催されました。村内外から多くのご家族にご参加いただき、大盛況となりました。

そもそも今回のイベント開催のきっかけは、夏に開催された「こらっせ祭り」に遡ります。まずそこで、地域史料保全有志の会会員で新潟大学鉄道研究会のメンバーでもある学生さんによってポスター発表が行われました。そしてその空間は、いつのまにか鉄道愛に満ち溢れた村内外の愉快な仲間たちによる世代を越えた語らいの場となっていき、この祭りの夢はそこからはじまりました。そして当日は、新潟大学鉄道研究会の皆さんを中心として、関わってくださった皆さんがトイトレイン等を持ち込み、圧巻の光景を見せてくださいました。鉄道研究部の皆さんは微に入り細を穿つ、遊び心いっぱいの仕掛けを沢山用意してくれました。飯山から来てくれた有志の会のメンバーの方は屋外で海外製の車両を走らせてくれました。村のある方は奥様との思い出がつまった車両について語ってくれました。子どもたちが作ったペーパークラフト車両が縦横無尽に駆け巡る様子に胸が熱くなりました。到底ここでは書ききれないほど、みんなで楽しい思い出を共有できました。以上、今回のイベントもまた、公民館から様々な新しいご縁が生まれるきっかけになったと思います。最後になりますが、関わってくださった皆様に感謝申し上げます。

（児玉駿介）

こらっせの1階いっぱいにトイトレインの線路が広がる光景は圧巻でした。子どもたちは好きな列車を思い思いに走らせ、車掌体験や運転体験も楽しんでいました。学生の皆さんが子どもたちに優しく丁寧に教えてくれる姿が印象的でした。

好きなことに夢中になり、いきいきと取り組む大学生の姿はとても輝いて見えました。子どもにも、自分の好きなことを見つけ、夢中になれるものを大切にしてほしいと思いました。子どもにとって大喜びの1日になり、はるばる栄村までトイトレインを持ってきてくださったことに感謝です。

（長田ちなみ）

レンズを通してみる栄
第11回
秋山郷の秋発見

2026年 秋の秋山郷を散策しました

今年も応援したよ サイクリング！

今年で18回目となった栄村の一大イベント！グルっとまるごと栄村100キロサイクリング！携わった村民の声をほんの一部ご紹介します。

小赤沢　ぶんぶんカフェ

今年２回目、毎回楽しくやっています。今年はブルーベリーミルクを400個作りました！

笹　原　笹原のみんなと野口からも

３回目の今年も流しそうめんで応援しました。天気が良くてよかったです！カメムシが少なくてよかったです！喜んでくれてよかったです！とっても楽しくおもしろかったです！みんな楽しそうに走って美味しそうに食べてくれて嬉しかったです！仲間と一緒にできて最高です！

野田沢　阿 部 栄 子

お汁粉だして、何年になるかな？「楽しみに走ってきた」と言われると嬉しいです。その言葉でまた来年も作ってしまいます。

今　泉　杉 浦 一 史

小学６年生の息子と２年ぶりに、グルっとまるごと栄村サイクリング40㎞コースに参加しました。２年前に息子と参加した時は、ポタリング寄り、競争とは縁遠く、気になった場所の写真を撮りつつ、ゆったり各集落を廻りました。今年もそんなつもりで出たものの、走り出したら息子はしっかりペダリング、思った以上のサイクリング寄りに。予想よりかなり早くゴール、息子の成長を感じつつも、今度はもっとのんびり楽しくペダルを漕ぎたいな、とも思った一日となりました。

あーそんなことがあったんか ～ど先生の栄村昔語り～ 其の七十七

明治四三年の水害

地域史料保全有志の会
鈴木 努（通称：ど先生）
イラスト作成：佐藤洋平

季節は秋から冬に向かう頃合いとなりました。いかがお過ごしでしょうか。今年も早や残り二ヶ月となりました。この夏から秋にかけては東日本は猛暑から一転、雨天続きとなり、県内でも八月に池田町・松川村などで記録的な豪雨がありました。またニュースでご覧になった通り、関東地方では八・九月に亘り雨天続きのうえ豪雨、台風に見舞われ、洪水や湛水被害、さらに地滑りが多発し、未だに復旧途上にあります。また海外でもネパールの大崩落やタイの大洪水など、水に関わる災害が目に付きます。そこで、今回はテーマを変え、水に関わる災害の話をしようと思います。私も参加しております地域史料保全有志の会は災害からの文化財レスキューを目的に発足したことでもあり、テーマを改めたものであります。

栄村の豪雨にまつわる災害としては、大正三年（一九一四）八月の豪雨災害がよく知られており、『栄村誌』でも一項を設けて詳述されています。また千曲川の川除普請や被災地の見分願いも数多く伝わっています。今回取り上げるのは明治四三年（一九一〇）八月六日付けで書かれた「水防報告書」です。「八月五日千曲川洪水ニ際シ堺村本校舎へ浸水危険ノ状ヲ認メタルニ依リ水防作業ヲ左ノ如ク執行セリ」で始まる報告書は、迫り来る水勢に対しどのように行動したかを時間を追って記録してあり、事後報告的な史料が多いなか、まさに現場での様子を伝える点で貴重なものだと思います。以下、内容を見てみましょう。原文は漢字片仮名交じりの文体ですが、かいつまんで内容を紹介します。

八月五日の千曲川洪水に際し、堺村堺（小学校の）本校舎に浸水危険の状況を認めたので、水防作業を執行した。

午前三時、組頭は学校よりの報告で現場へ出張。波浪は校舎前面の運動場に打ち上げようとする状況、一旦引き返す。午前九時頃再び出張、受持巡査と監視、正午頃には運動場の三分の一位まで浸水したが（水は）静止の状態なので昼食のため引き取る。付近の視察をする内、増急激の状態を視認し直ちに警鐘を打ち総員を召集、現場に向かう。前後して月岡消防組も来て協力する。

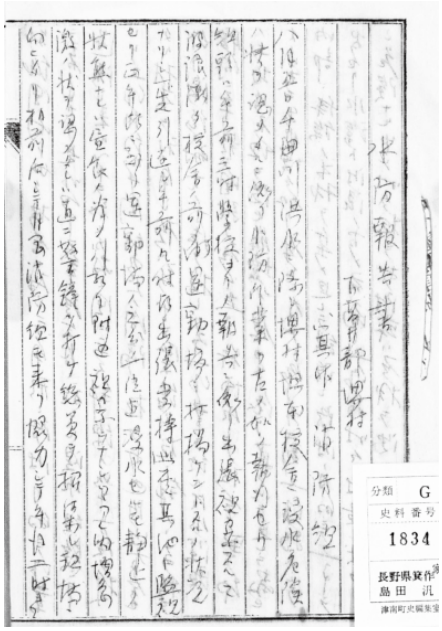
午後二時、これより別紙の如く後者に相対して三角形に防波の目的で作業に着手。これは昨四三年八月の浸水の経験により逆流してくると知ったのでこのような方法を採った（作業の詳細は後述）。

第一作業を終る頃、水深は既に腰間に至り、頗る困難を極める。しかしなおも増水して校舎の敷地の土坂および石垣を洗うようになり崩壊のおそれがあったので筵で蔽った。しかし出水は増加し（校舎の）床下に及んだ。これにより第二列工作物として（第一の工作物の）内部に残余の木材を集め、これを連結して防波の目的の工事をした。水深と波浪のため前面の工作物は時々破潰の状態を呈し、危険のため時々杭を打ち付け、あるいは石材を沈下し動揺を防いだ。水はなお増大し、床板に接着するに至った。

そうこうしつつ日没に至り、一時水中の作業を中止し監視を厳重にするなか、午後十時半頃に至り、水勢平定の状況を認めたので、交番に睡眠を採らせた。一二時に至り減水の徴候を認めたので工作物材木を流失させないため取除き方を命じ、再び水中作業を行う。

翌午前二時、全作業を終り、減水の状況を確認したので人足を点呼し引き上げた。組員中に負傷者なし。

報告書を認めたのは下高井郡堺村箕作消防組の組頭・島田義策で、当時は堺村議会議員でもありました。長くなりましたので、読み解きは次回に譲り、今回はここまでとします。



新しい黒板アート登場!!

栄村歴史文化館こらっせには、開館時より黒板アートがあり親しまれていましたが、10周年を迎えるにあたり一新!!
手掛けて下さった飯嶋先生に伺いました。

先生の自己紹介

さかえ小中学校に勤務しています。図工美術が好きな、飯嶋広恵といいます。

黒板アートとは？

学習で使う黒板に、チョークで絵を描いたものです。見慣れた黒板とチョーク。でも、絵を描くことで、その場がアート空間に変身します。

黒板アートとの出会いと魅力は？

きっかけは、大学時代。様々な美術と学校の関わりについて調べている時に、武蔵野美術大学の学生たちが「旅するムサビプロジェクト」の活動の一つ「黒板ジャック」というものがあることを知りました。子どもたちに内緒で学生たちが制作した個性豊かな黒板の絵が登校してくる子どもたちを驚かせ、いつもの教室を「非日常」に変化させるというものです。実は、これまでこらっせの２階にあったあの黒板アートも「旅するムサビプロジェクト」で学生が来て描いたものだそうです。もう一つのきっかけは、年賀状です。言葉にするのが苦手な自分、でも絵で、自分の仕事と、その楽しさを伝えることができたらいいなと思い、最初は簡単な絵から始まりました。休み明け、登校してきた子どもたちが黒板アートを見て、驚いたり、楽しそうに見てくれたり、次は何を描くの？と聞いてくれたり、そんな反応をいただくうちに、様々な時期や様々な場所で描かせていただくようになりました。普段使っている、見慣れているものも自分の工夫次第でいくらでも楽しくなる。それが黒板アートの魅力の一つだと感じています。

今回の黒板アートについて

今回、地域史料保全有志の会の石野先生からお話をいただきました。こらっせ開館10周年と地域史料保全有志の会活動１００回記念を迎え、その記念に開催された「こらっせ祭り」の企画の一つとして参加させていただきました。２階の黒板には、栄村の手漉き和紙「内山和紙」のことを、階段のところの小黒板には「10周年のお祝い」が伝わるものを、それぞれ描かせていただきました。

見てほしい点や、これからの活動など読者へのメッセージを

２階の「内山和紙ができるまで」の工程を描いたものは、石野先生から、資料をいただいたり、実際にお話を聴きながら制作しました。想像だけで描いてはいけないな、ちゃんと伝えなきゃと思い、石野先生から、実際のものを見せていただき、道具の使い方や、どんな人たちが、どんな場所で作っていたのか資料だけではわからなかったことをたくさん知ることができました。「屋内にある大釜で蒸す」ところや「雪ざらし」は栄村ならではということも知ることができました。階段のところの「10周年のお祝い」の絵は、猫つぐらを描きました。描いているときに、ちょうど猫つぐらを制作していた安田さんにお会いすることができて、本物を間近で見せていただきました。１階から階段を上がっていくときに、黒板に描いた猫と目が合うように制作しました。ちょっとびっくりするかもですが（笑）驚きや楽しさが伝わってくれたらいいなと思います。今回、このような機会をいただいたことで私自身、栄村に関わる魅力的なものや人に出会って深く知ることができました。今回はほんの一部。まだまだ出会っていない、ワクワクするものがいっぱいあるのだと思います。私の黒板アートが、その〝見たい知りたい〟のきっかけの一つになってくれたら幸いです。

先生の黒板アートもみんなに愛されるとても素敵な作品になっています。こらっせにぜひ見にいらして末永くお楽しみください。
また、今回描いている様子をＹｏｕＴｕｂｅ配信しています。二次元コードまたは、栄村歴史文化館・黒板アートで検索してくださいね。

ねこつぐら

内山和紙

栄村公民館 図書室だより

2026.11

百合居橋周辺の工事も大幅に進みどんどん景色が変わりますが栄村の秋はいつも通り少しずつ色が変わり銀杏の木などはみるみるうちに秋の色ですね。

カメムシの多さに今年は雪がたくさん降るぞという声もちらほら聞かれるようになりました。冬支度が終わるとあっという間に年末ですね。でもその前に読書の秋もお忘れなく！

定期購入している雑誌紹介

前回は『長野こまち』を紹介しました。

今回はNHKテキスト『趣味の園芸』の紹介です。この雑誌はＥテレで放送されている番組のテキストですがこの番組の歴史は古く放送開始は1967年！

一口に園芸といっても楽しみ方も様々で奥深い…新刊以外は貸し出ししておりますのでご利用ください。

★休館日のお知らせ★

年末等で休館が多く、ご不便をおかけします

11月21日㈯～23日㈪
12月19日㈯～20日㈰
12月26日㈯～27日㈰
12月29日㈫～令和９年１月３日㈰

★栄村図書室開放時間★

平　日　午前８時半～午後５時
土・日　午前９時～正午
※祝日は休館します

公民館講座スケジュール

今年度予定している公民館講座をお知らせします。詳細等は事前配布の案内をご覧ください。

11月７日㈯　栄村誌リレー講座
12月６日㈰　しめ縄作り講座
１月16日㈯　豆腐つくり講座
２月14日㈰　耳だんご作り講座
３月６日㈯　肉まん作り講座

11月21日㈯ 栄村公民館主催

ピアノと歌のコンサート♪開催します！

詳細は、別紙チラシをご覧ください。どうぞお楽しみに♪

今月の一句 ～栄村俳句会～

野仏に手を合わせいる雨上がり
久々の千曲見下ろす散歩道　関谷貞子

秋冷や道に居ならぶ石仏
山栗の小さきを剥きて栗ご飯　柳　静江

秋山の朝日輝く紅葉かな
柴犬や元気でいてねと秋の陽に　山田くにえ

里芋の葉っぱの下で雨やどり
風に揺れこそこそ話すススキかな　杉浦咲衣

刈り終えし田原を愛でるすすきの穂
日向ぼこ仔犬の寝言キュンキュンフー　杉浦恵子

俳句の会への参加や俳句の投稿募集しています！ご興味がある方は栄村公民館（☎87-3118）までお電話ください。

編集後記

７月から公民館報の編集委員として加わりました。村内のホットな話題を皆さんにお届けしていけたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

長雨が続き、稲刈りにはご苦労も多かったことと思いますが、ありがたく村の新米を美味しくいただく日々です。

先月からカメムシが大量に発生し、「カメムシが多い年は大雪になる」とも耳にするので、毎日ガムテープを片手に今年の冬はどれくらい雪が降るのだろうと気になっています。

今年も残すところあと2か月。あっという間に一年が過ぎていきますね。今年やってみたいと思っていたことを振り返り、できることから取り組んですっきりとした気持ちで新年を迎えたいものです。

㋒